

編集後記

未来社会で目指すべき姿として提唱される Society 5.0 では、人間中心の社会を構築して一人ひとりの多様な幸せ (well-being) を追求することが求められています。このような社会に向けて、計測自動制御学会、特に私の専門であるシステム制御や数理最適化の研究者や技術者はどのような貢献ができるのでしょうか。これらの分野がこれまで主に対象としていた電機システムに対する理論や技術を進めるだけで十分でしょうか。もちろん、これからは素晴らしい理論や技術が開発されていくでしょうし、それらを通して間接的に社会に貢献していくことは疑いありません。それでも、もっと“直接的に”人間を対象とした理論や技術を考えていくこともできるはずで、このような考えから、人間を対象としたシステムであるサービスシステムに着目したのが本特集号になります。

当然予想されることでしょうが、調べていくうちにサー

ビスシステムには本当にさまざまなものがあることはわかってきました。特集号で取り上げた医療、行政、交通の分野だけではなく、エネルギー、仕事、教育、娯楽など、どの分野でも興味深いサービスがあり、とてもすべてを挙げることはできませんでした。そこで、さまざまなサービスシステムの土台となる都市全体を議論すること、予測、マッチング、シェアリングなど特に広く応用展開できるサービスシステムの基礎理論を紹介すること、さらに対象である人間の理解に繋がる理論を紹介することに狙いを絞って特集号を構成することにしました。寄稿いただいた解説記事はどれもたいへん勉強になるもので、私自身でもこんなサービスを作れるのではないかと多くのアイデアが浮かんできました。本特集号のために解説記事を寄稿いただきました執筆者の皆様へ深く感謝お礼申し上げます。

(井上 正樹 記)

◇第 63 巻第 7 号 (2024 年 7 月号) 予定目次◇

一般記事	解 説	IFAC WC 2023 でのダイバーシティとインクルージョン
リレー記事 「FACE the future」《第 66 回》とても不完全なデータを分析可能とすることを目指して 幸島匡宏 (NTT)		清水佳子 (東芝エネルギーシステムズ), 田中玲子 (Imperial College London)
特集 IFAC World Congress 2023 in Yokohama	解 説	自動制御協議会と IFAC 三平満司 (東工大)
総 論 国際自動制御連盟 (IFAC) とその世界大会 (World Congress) の招致・総括 浅間 一 (東京大)	解 説	IFAC WC 2023 でのイベント 山本晃生 (東京大), 畑中健志 (東工大), 新妻実保子 (中央大)
解 説 IFAC WC 2023 の振り返り: 大会運営の視点からの総括 井村順一 (東工大), 石井秀明 (東工大), 蛭原義雄 (九州大)	解 説	IFAC Control Orchestra: その意義と期待 汐月哲夫 (東京電機大), 山口高司 (リコー), 前 匡鴻 (東京大), 永原正章 (広島大)
解 説 「わ」のコンセプト 原 辰次 (中央大), 樫木哲夫 (京都市大), 高橋桂子 (早稲田大), 河野通長 (ミチクリエイティブシティデザイナーズ)	解 説	IFAC WC 2023 での会場運営 倉林大輔 (東工大)
解 説 IFAC への産業界からの参加の現状と Industry Group の活動の意義 浅野一哉 (JFE テクノリサーチ)	解 説	ハイブリッド会議運営の実際 船田 陸 (東工大), 永原正章 (広島大)
	解 説	IFAC World Congress 2026 in Busan, Korea Hyungbo Shim (Seoul National Univ.), Hyo-Sung Ahn (GIST)

(第 63 巻第 6 号)

特集号編集 WG: 西尾 唯 (本田技研工業), 金子 修 (電気通信大学), 小木曾公尚 (電気通信大学), 豊田 充 (東京都立大学), 堀川徳二郎 (東芝三菱電機産業システム), 井上正樹 (慶應義塾大学: 幹事)

2024 年度 会誌出版委員会 (五十音順)

委員長: 山下 智輝

副委員長: 小木曾公尚

飴谷 充隆	伊藤 博通	伊藤 優司	井上 淳	伊吹 竜也	大谷 雅之	大塚 章正
岡島正太郎	岡本 有司	尾山 匡浩	川喜田佑介	川瀬 利弘	久下本秀和	関 宏理
田中 基康	豊田 充	西川 鋭	西野 敦洋	長谷川圭介	堀内 哲也	堀川徳二郎
宮廻 裕樹	保田 俊行	山田 広明	吉野 公三			